

【優秀論文】

「交流分析」から考えるコミュニケーションの形 ～『秘密の花園』論～

3年5組5番 石村 梨緒

I はじめに (アブストラクト)

フランシス・ホジソン・バーネット (Frances Hodgson Burnett) による『秘密の花園 (The Secret Garden)』は1911年にアメリカ合衆国で出版された児童文学である。著者のバーネットは『小公子 (Little Lord Fauntleroy)』(1886年出版)、続く『小公女 (A Little Princess)』(1905年出版)で名声を上げ、『秘密の花園』を執筆した。主人公メアリ (Mary) が引っ越し先のイギリスで、隠された花園を見つけ、新しく出会う仲間と共に、美しく再生させる物語である。児童文学として世界中から愛されるこの作品は、羽田詩津子が「(メアリは)庭をつくり植物を育てることによって癒され、人間として大きく成長していく」¹と述べるように、豊かな植物や動物に囲まれたことで成長するメアリが描かれる。先行研究も複数あり、その論文の多くが、自然とのふれ合いによる心の落ち着きや変化について述べている。しかし、彼女が出会った仲間たちについてはあまり述べられていない。そこで、この物語を読み深めるために、メアリを中心とした人々とその人々とのコミュニケーションに注目することで、わがままだったメアリが周りの人々とどのように打ち解けたのか、どのような変化が起こったのかを考察した。

本論文では『秘密の花園』を論じていくにあたり、以下の手順に沿っていきたい。まず、物語のあらすじや登場人物について述べ、登場する3人の子供たちと周囲の関係を整理し (II)、物語前半のメアリとディコン (Dickon) のコミュニケーション (III)、後半のメアリとコリン (Colin) のコミュニケーション (IV) を「交流分析」の観点から考察する。最後に、3人の子供たちのコミュニケーションの形から、この作品を分析する (V)。

II あらすじと登場人物

『秘密の花園』の舞台は、イギリスのヨークシャーである。英国領インドに暮らしていた10歳の少女メアリは、金銭的には豊かな暮らしをしていたものの、両親のメアリに対する無関心は育児放棄とも言えるものであった。メアリ自身も召使い²に対しわがままであったため、幼いころから屋敷の中でも孤立していた。しかし、悪性のコレラの猛威により突如両親も召使いも亡くなってしまう。

インドで両親も召使いも失ってしまった直後のメアリの様子について、梨木香歩は「精神的にはこれまでと何ら変わらず (自分が絶望的なほど孤独であり、寂しいのだ、ということに気づいておらず)、ただ、世話をするものがすぐ近くにいない、という現実的な不便

¹ 羽田詩津子(2007)『秘密の花園』訳者あとがき 角川文庫 p.426

² *The Secret Garden* の servant の日本語訳は文庫によって表記が異なる。本論文では、インドでの servant は「召使い」、イギリス、ヨークシャーでの servant は「使用人」と訳す。

のために腹を立てて」³いと述べている。子供を欲していなかった彼女の親は、世話を召使い任せにして、メアリへ愛情を注ぐことがなかった。親子間の信頼関係を築けなかったといえる。このことから10歳のメアリは、「両親が亡くなった」という物事は理解できるものの、その不幸に対して「悲しい」という感情は湧かなかったのだ。ゆえに梨木は、精神的に変化は無かったと述べている。

その後メアリはイギリスに暮らす叔父、クレイヴンに引き取られる。ヨークシャーの壮大な屋敷で、10年間放置された「秘密の花園」を発見したこと、使用人の弟であるディコンと意気投合したことで、初めて人とふれ合うことができた。ある日メアリがひとりで屋敷を探検しているとき、彼女と同じ10歳の従兄弟であるコリンに出会う。癩癩持ちのコリンは、周囲に心を閉ざし、外へ出ようとしない。ところが、メアリとふれ合ううちに、コリンは周囲を受け入れることができるようになる。

本稿では、親しい人が全くいなかった孤独なメアリが、それを自覚し、対人関係を学んでいく過程と、その後に彼女が周囲に与えた影響を、交流分析を通して考察していく。

Ⅲ メアリとディコンの相補的交流

(1) 物語冒頭のメアリの自我状態

臨床心理学⁴における「交流分析 (transactional Analysis)」とは、「個人と個人の関係の分析を基礎に置いた、アメリカの精神科医エリック・バーン (1962) によってつくられた集団療法」⁵である。人物の性格やコミュニケーションの仕方は、3つの「自我状態」によって決定されるとした。自我とは成長とともに意識されるようになる、まとまりを持った人格のことである⁶。

M.ジェイムスとD.ジョングウォードによると、「親の自我状態 (parent より以下 P)」は、過去の外的要因である育ててくれた人の影響を受けて、取り入れられた考え方や行動であり、父性 (CP) や母性 (NP) が含まれる。これは、他人の行動を評価する際の基準となり、責任感や世話好きな面として現れる。次に「大人の自我状態 (adult より以下 A)」は、自身の知識や経験、つまり内的要因に左右され、現状を冷静な思考で判断する。最後に「子供の自我状態 (child より以下 C)」は、過去の経験を元にし、本能的で自由に行動するといえる。その中でも2パターンの思考に分類されている。素直な反面、優位になりすぎると感情の起伏が激しく他者への配慮が欠けるリスクのある「自由な子供 (free child より以下 FC)」と、適応的で防衛的な「従順な子供 (adapted children より以下 AC)」である⁷。

親、成人、子供の3つの自我状態の強さのバランスは、個人の性格を形成し、行動に現れていく。ただし自我状態のバランスは、交流する相手によって個人の中で変化するとされる。常に同じバランスを保っているのではなく、それぞれの場面、それぞれの相手で決定されるのだ。

³ 梨木香歩(2010)『『秘密の花園』ノート』岩波ブックレット p.8,9

⁴ ある特定の状況と格闘している存在として考えられる一主体において、典型的とされるものは何か、ということをも明らかにしようとする人間行動理解の方法の一つ。(滝沢武久、加藤敏(1999)『ラールス臨床心理学事典』功文堂 による)

⁵ 滝沢武久、加藤敏(1999)『ラールス臨床心理学事典』功文堂 p.109,110

⁶ 同前 p.129

⁷ M.ジェイムス、D.ジョングウォード(1976)『自己実現への道-交流分析(TA)の理論と応用』社会思想社 による。

『秘密の花園』冒頭における、メアリの周囲の存在といえ、育児放棄をする親と彼女の召使いだけである。そこから生まれた、着替えさえも自分で行おうとしない様子やわがままで当たりの強いメアリの言動は、幼少期にかなり FC（自由な子供）に偏った自我状態を持っていたことを示す。つまり子供の自由な思考が優位になりすぎて自分勝手な行動をしてしまっているのだ。その様子を初めて見たヨークシャーでの新しいメアリの使用人は驚きつつ、このヨークシャーで様々なことを学ぶべきだと助言した。

（2）ディコンとメアリの交流パターン

交流分析の中に「交流パターンの分析」という理論がある。これは、発信する自分の自我状態と同じように、受け取る側の相手の自我状態を理解して、その組み合わせにより関わりをパターン化する方法だ⁸。自分と相手の自我状態をふまえて、相応しいコミュニケーションの形を生み出せる理論とされている。これを認識するためには、本人の自我状態に加え、どの立場の人に向けて発信しているかという点の理解が必要である。

理想的な形として、「相補的交流」の交流のパターンが挙げられる。「相補的交流」では自分が期待した反応が相手から返ってくるため、スムーズなコミュニケーションが取れる。

では、ディコンとメアリのコミュニケーションはどうだろうか。鋤と種を渡す約束で初めてメアリに会った少年ディコンは、種を植える手伝いをしようと彼女の花園の場所を聞く。素直な優しさと、好奇心旺盛な姿は FC の特徴だ。子供同士、対等な関係で話そうとする彼は、C 同士のコミュニケーションを期待している。自分が C に偏っており、相手に C を期待しているこの状態を、C→C と表すことにする。種の植え方を知るが隠された花園の場所を知らないディコンと、植物について知識はないが花園のありかを知るメアリは、知らないことを補い合える関係なのだ。対人関係のコミュニケーションについて、M.ジェイムスと D.ジョングウォードは次のように述べている。

身ぶり、顔の表情、姿勢、声の調子などのすべてがどの交流にも意味を持たせる。言語的なメッセージが十分に理解されるためには、受け手の方は相手の言葉とともにこうした非言語的な側面をも考慮に入れなければならない。⁹

メアリの言葉と態度どちらも受け入れることで言語的なメッセージ、つまり彼女の思いを理解できるということである。花園の場所が広まり怒られることを恐れてメアリが涙を流したとき、すぐに戸惑うことなく寄り添ってくれたディコンの心の広さを、メアリは感じ取っていた。メアリ自身は前述した通り C の自我状態が強い。メアリから見たディコンについてはどうだろうか。本文より、メアリの視点で述べられた 2 人が初めて出会った時の様子から考察したい。

He spoke in an easy, friendly way. Mary liked him at once. (中略) He explained how to plant the seeds. Suddenly he said, 'I can help you plant them! Where's

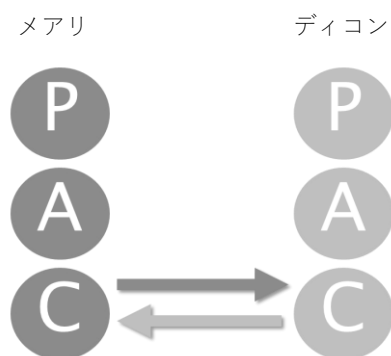
⁸ 日本交流分析学会「交流分析とは」(<http://js-ta.jp/analysis.html>) 2020年8月5日閲覧による。

⁹ M.ジェイムス、D.ジョングウォード(1976)『自己実現への道-交流分析(TA)の理論と応用』社会思想社 p.39

your garden?¹⁰

ディコンの様子はメアリにとって *an easy, friendly way* つまり気さくで話しやすい印象であり、*Mary liked him at once* とあるように、彼女はディコンのことをすぐに好きになった。ディコンは優しく話しかけ、自分がメアリに種植えを手伝えることを示してから、秘密の花園のありかを聞いた。この言動はディコンの、相手を理解しようとする気持ちが、素直に表に出ていることを表している。ディコンはメアリに隠し事をせず素直に答えてほしいと思っているのだ。好奇心旺盛な性格と手伝えることを面倒に思わない態度が C の特徴としてよく現れているといえる。後ほどIV章で、物語に登場するもう一人の子供、コリンとは対応の仕方が異なることを記す。もし A や P に自我状態が偏っていれば、彼は手伝いにかかる労力や時間について考えてしまっていただろう。メアリはそんなディコンを好印象に受け止め、対等に教えあうことを望んだ。ディコンが C であることを期待しているのだ。よってメアリの状態は C→C といえるだろう。これらの理由から、図1のようにメアリもディコンも互いに C→C の言動を行なっていると分かる。

図1 メアリとディコンの相補的交流



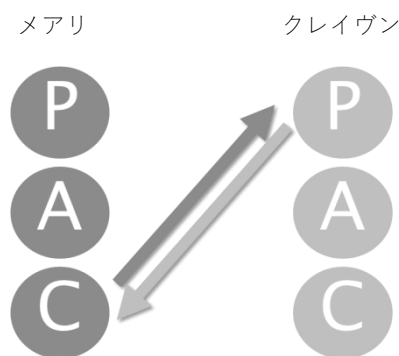
この2人は C⇄C の「相補的交流」を行っている。お互い知りたいことを尋ね、素直に教えてくれる相手を尊重し合っているのだ。メアリがスムーズなコミュニケーションを学べた根拠として、彼女をヨークシャーに招いた叔父のクレイヴンとの会話が挙げられる。ヨークシャーの館の壮大な敷地は全て彼が所有していた。

Mary came step nearer to him, and her voice shook a little as she spoke. 'Could I have a bit of garden?' / Mr. Craven looked very surprised. / 'To plant seeds in... To make them come alive!' Mary went on bravely. 'It was too hot in India, so I was always ill and tired there. But here it's different. I...I love the garden!' / He passed a hand quickly over his eyes. Then he looked kindly at Mary. 'I knew someone once who loved growing things, like you. Yes, child, take as much of the garden as you want.' He smiled gently at her. (p.33)

¹⁰ Frances Hodgson Burnett(2007) *The Secret Garden*: Oxford Bookworms p.30
以後、本論における引用は本書を底本とする。

ヨークシャーに来てから庭が好きになったこと、もしよければ自分自身の庭が欲しいことをメアリはクレイヴンへ伝えた。2人は初対面であったが、植物に興味を持ち庭を少し譲って欲しかったメアリに、*he looked kindly at Mary* そして *take as much of the garden as you want* とあるように、クレイヴンは優しく、メアリが欲しいだけ庭を譲ろうと快諾する。相手から譲って欲しいメアリ (C→P) と、進んで譲ろうとするクレイヴン (P→C) は、図2のように C⇄P の「相補的交流」が行えている。一度ディコンによって望ましい交流の仕方を知ったメアリが、実際に他の人ともスムーズに交流できていることが示されている。

図2 メアリとクレイヴンの相補的交流



実は 10 年前、クレイヴンが所有するこの館の庭で、彼の妻が亡くなっていた。メアリがクレイヴンに庭の話振ったことで、彼は妻を思い返すこととなったはずだ。彼がこの物語で直接妻について口にするには無かったが、それは理性的な一面である A に影響されたものだろう。妻が亡くなってから仕事で各地を転々とし、息子のコリンから遠ざかることで、つらい記憶を早く忘れようとしていたのかもしれない。このことから、交流分析の自我状態は、常に固定されているのではなく、状況によって変化するものであると分かる。交流分析は自身だけでなく、どういった人を相手としているかで決定するのだ。クレイヴンは、館にも息子にも近づこうとしなかったほどに妻の死から逃れようとしていた。メアリとの庭の話も精神的に厳しいものだったに違いないが、その事情を知らないであろうメアリには *He smiled gently at her* とあるように、笑顔で優しく対応した。

IV コリンの自我状態と交流の仕方

(1) コリンの自我状態

ヨークシャーの館の一人息子であるコリンは、病気がちで寝たきりな自分は誰からも好かれておらず、煙たがられている存在なのだとメアリに語った。父親のクレイヴンは家のことは使用人に任せっきりにし、母親は事故で亡くなっていた。使用人に頼る生活をして愛情を受けてこなかったという状態が、メアリと同様であることに気づくだろう。松本朗はメアリと似た境遇を持つコリンについて、次のように述べた。

いわば、ふたり (=メアリとコリン) は、育児を放棄する身勝手な大人の犠牲者と

いえよう。しかもコリンは、自分が近い将来にせむし¹¹になって死ぬ運命にあり、周囲もそれを望んでいると信じこんでいるために、ひとり死の恐怖に戦きながら、だだっ広く、カーテンを閉め切った部屋に横たわって毎日を過ごしている。¹²

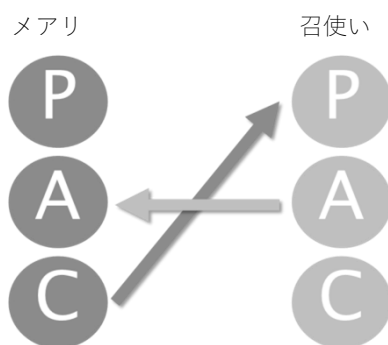
コリンは、使用人でもないのに部屋に来てくれた唯一の人であるメアリと話がしたくて部屋へ招く。しかし「命令すれば何でもしてくれる」という考えが染みついているため高圧的な態度をとる。隠された花園についてメアリから聞き出そうとする様子から、コリンがFCの自我状態を強く持っていることが読み取れるだろう。

Colin sat up in bed and looked very interested. / ‘What door? Who looked it? Where's the key? I want to see it. I'll make the servants tell me where it is. They'll take me there and you can come too.’ (p.36)

コリンはメアリから花園についての話を聞き出そうとしたが、メアリがそれに応じる前に、使用人を使って探し出そうという考えを示した。さらに使用人に探させて分かった事実を、**you can come too** とメアリにも見る権利を与えるように言った。Ⅲ章のディコンと比較すると、コリンの「自分は他人から与えられる立場だ」という一貫した思考が伝わる。前述した通りディコンは、花園についてメアリに聞く際、自身も種植えを手伝うことで平等に教え合いたいという対応をとっている。コリンも同じ花園への入り方を聞いているのにも拘らず、ディコンとは異なって、使用人に探させようとしていたり、見つけさせた鍵の所有者は自分であると信じ込んでいたりした。強いFCの自我状態を持つことで自分勝手であり他人を尊重できていないのだ。与えられる存在であるという認識は、相手に親の心つまりPを期待しているといえる。よってコリンの心はC→Pと表せる。

Ⅲ章で述べた「相補的交流」とは反対に、予期せぬ反応をされることでお互いが満足いかない交流の形は「交差的交流」と呼ばれる。

図3 メアリと召使いの交差的交流



例として、インドのわがままなメアリと仕事上の召使いの交流を考察する。親の代わりに自分を愛し、身の回りの世話をしてくれる存在として、メアリは召使いに甘やかされることを望んでいた。よって、メアリの行動は「子供の自我状態が強い自分が、親の自我状態を持つであろう相手へ」という方向に進められる。つまりC→Pだ。一方の召使いは、あくまで仕事での人間関係、という意識のもと世話をしていた。

¹¹ 人の背中中央にあって体を支える脊柱は、通常途中で軽く曲がって生理的湾曲の形になっている。ときにこの湾曲が異常となり背中の一部が丸く突出した状態を「せむし」になる、という。コリンは心の中でそれを恐れていたが、物語最後でメアリに打ち明けるまで、それを決して口に出さなかった。

¹² 松本朗(2007)『秘密の花園』解説 光文社古典新訳文庫 p.488 (括弧内引用者)

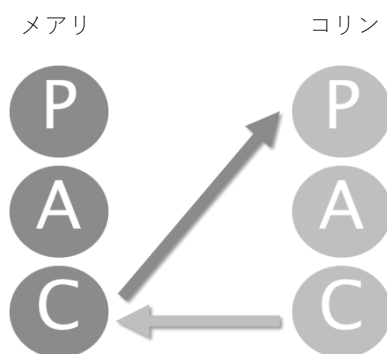
自我状態が成人 A に偏ると、冷たい人という見方をされることがある。「成人の自我状態が強い自分が、相手にも成人の自我状態で接してもらおうこと」を期待しており、必要以上に親しみを持っていないのだ。このことから A→A の行動をしていたといえる。よって、互いが求めている相手の対応が異なるため、メアリと召使いのこのコミュニケーションが図 3 のような C→P、A→A の「交差的交流」だと分かる。「交差的交流」の場合、C⇌P や A⇌A のように矢印が双方を向くことは無い。

使用人にもメアリにも、自分の意見を押し通そうとしているコリンはまだ誰にも心を開けておらず、他人とのコミュニケーションに心地よさを感じたことが無いのである。「交差的交流」しか体験していないのだ。M.ジェイムスと D.ジョングワードは、上手くいかないコミュニケーションである「交差的交流」をしたことで生まれる心情について、次のように述べている。

交差的交流は二人の人間一両親と子供、夫と妻、上司と部下、教師と生徒などの間の苦痛の原因になることがよくある。交流を開始する人は、ある種の反応を期待しているのにそれがえられないのである。彼は裏切られたのであり、軽視されたと感じることが多い。¹³

コリンが期待しているのは、親から受けるものと同様の愛情だ。しかしそれが得られずに軽視されているのだと感じるあまり、余計にわがままに振舞うようになっているのではないだろうか。コリンの命令的な態度に、メアリはインドにいたときの自分を思い出す。無意識にわがままに振る舞っていたかつての自分は、目の前のコリンとかなり似ていると実感した。このことからメアリは、コリンの気持ちに寄り添おうと心に決めたのだ。甘やかされたいコリンと、対等に話を聞こうとするメアリはすれ違っている。この時の交流の状態は図 4 のような C→P、C→C の「交差的交流」である。

図 4 メアリとコリンの交差的交流



(2) 交差的交流から相補的交流への変化

¹³ M.ジェイムス、D.ジョングワード前掲 p.41

花園への鍵を見つけたメアリがディコンと外にいる間、コリン (FC) は部屋でメア리를待っていた。一人でいることの寂しさとディコンへの嫉妬で、コリンは痲癩を起こしてしまう。このときのコリンの自我状態は (1) で述べた通り、誰に対しても C→P である。コリンにとって今まで関わってきた人たちは全て、自分から一歩引いているような、深く関わってこようとしなない態度だった。

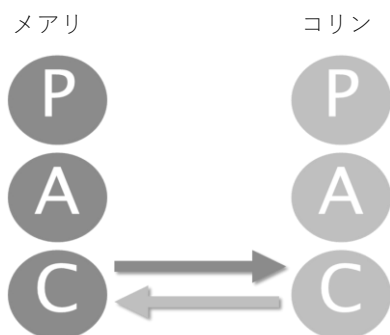
しかし、痲癩を起こすコリンを前に、メアリは ‘You just say that to make people feel sorry for you. You’re too harried to die.’ (すぐに死んでしまう運命にあるとコリンは言ったが、「本当は周りの気を引いてかわいそうだと思ってもらうためにそう言っているだけだ」と核心をついた)¹⁴ と伝える。正面から自身の素直な思いをぶつけてくるメアリの存在は、コリンにとって初めてだった。声を荒らげてコリンは死なないと主張するメアリについて、梨木は次のように述べている。

メアリのその『素直さ』を嫌というほど思い知ったコリンは、この言葉が正直なものであることも直感します。心の底からホッと、さめざめと大粒の涙をこぼします。¹⁵

部屋で1人で過ごすことがいつの間にか日常になっていたコリンにとって、本当の自分の気持ちを知るのは自分だけであった。側にいた使用人もあくまで仕事だからいるのであり、自分と近い存在であると思ったことがなかったのだ。話を聞こうとするメアリに、コリンはずっと気にしていた病気について初めて語る。背中に瘤ができ、せむしになるかもしれないと初めて他人に打ち明けたのだ。

‘Don’t be stupid!’ Cried Mary. ‘There’s nothing the matter with your horrid back! Martha, (=マーサ。コリンとメアリの使用人の内の一人であり、ディコンの姉) come here and help me look at his back’ (中略) ‘There’s nothing wrong with your back!’ (中略) Only Colin knew how important those crossly spoken, childish words were. All his life he had been afraid to ask about his back, and his terrible fear had made him ill. (p.43,44)

図5 メアリとコリンの相補的交流



実際に瘤があるか確かめようと、メアリと使用人が彼の背中を見る。そこで何も問題は無いと告げられた。背中には瘤は無く、コリンが瘤だと気にしていたのは、長年外へ出歩かず、体を動かしていなかったために痩せて少し浮き出ている骨のことであった。近い将来死ぬかもしれないというコリンの思い込みは間違っていたのだ。

¹⁴ 底本 p.41

翻訳は、数研出版編集部(2007) *THE SECRET GARDEN*: Oxford Bookworms(p.18) を参考とした。

¹⁵ 梨木香歩前掲 p.55 (括弧内引用者)

メアリという自分の気持ちを受け止めてくれる存在が生まれたことは、彼の世界が急激に広がったことを示す。自分のことを知ろうとしてくれる相手が現れたと同時に、相手の気持ちを知る機会もここで初めて与えられたのだ。メアリがまっすぐに思いを伝えなければ、コリンも自身の気持ちを語り、寄り添うことは無かっただろう。メアリが C→C の自我状態で接したことに影響され、コリンも同じ立場で向き合おうとし、C→C の自我状態へと変化した。メアリとコリンは「交差的交流」を乗り越え C⇔C の「相補的交流」を手にしたのだ。(図 5)

V 相補的交流を学んだ 3 人の子供たち

コリンは長年外へ出ようとしなかったが、死ぬ恐怖から解放されたことと、メアリやディコンの誘いがあったことで花園へ訪れる。様々な種類の花が咲き乱れる中、丁度帰宅した父のクレイヴンに、コリンは元気な姿を見せ、屈託のない笑顔で再会を喜んだ。メアリと同様に、「相補的交流」の学びを生かしてスムーズにやり取りが出来たのだ。

前章より、ヨークシャーのメアリ、ディコン、コリンは物語最後で「相補的交流」を手にしてスムーズなコミュニケーションが行えていることが分かる。特に親の愛情を満足に受けられず使用人との仕事上の関係しか無いメアリとコリンにとって、これまでの人間関係は好ましいものとはいえなかった。だからこそ、初めて知った、自分の期待通りの反応が返ってくる交流、つまり「相補的交流」の心地良さをより実感できたのだ。望ましい交流の形を、メアリはディコンに、コリンはメアリに教えてもらったのである。コリンは、病気である自分は厄介者だと信じ、その悲しさを隠すかのように、周囲へわがままな態度で当たっていた。しかしかつてのメアリが似た境遇であったことで、共感でき寄り添えたことでより早く関係の改善を行えた。

交流分析における最大の特徴は、コミュニケーションの形の決定が「どんな自我状態の相手に向けてなのか」という点だろう。相手がどんな反応を待っているのか、自分は相手にどう行動して欲しいのか、これが明確になるほどコミュニケーションは容易になっていく。容易になったことで相手を受け入れ、自分の世界が広がっていく。メアリはコリンの世界を広げるきっかけになったのだ。つまり『秘密の花園』は、メアリが交流の仕方を学び、それを教え実践する過程が描かれている作品なのである。

(9729 文字 原稿用紙 24.3 枚相当)

【参考文献および関連 URL】

- ◆羽田詩津子(2007)『秘密の花園』訳者あとがき 角川文庫
- ◆梨木香歩(2010)『『秘密の花園』ノート』岩波ブックレット
- ◆滝沢武久、加藤敏(1999)『ラールス臨床心理学事典』功文堂
- ◆M.ジェイムス/D.ジョングウォード (1976)
『自己実現への道-交流分析 (TA) の理論と応用』社会思想社
- ◆日本交流分析学会「交流分析とは」(<http://js-ta.jp/analysis.html>)

2020 年 8 月 5 日閲覧

- ◆松本朗 (2007)『秘密の花園』解説 光文社古典新訳
- ◆数研出版編集部 (2007) *THE SECRET GARDEN*: Oxford Bookworms